

真を撮りました。それらはきっと現地の方々にとっては何の変哲もない日常生活をただ切り取っただけのものにすぎないでしょう。しかしそのすべてが、私にとっての非日常でした。この5日間はわたしの16年の人生の中の何物にも置き換えることのできない大切な時間となりました。

2日目、3日目の小学校訪問と民泊は、様々なことを痛感するきっかけとなりました。それは「違い」です。たまたま日本に生まれたわたしは教育面でも衛生面でも整備された環境で育ち、望む娯楽と設けられた枠組みの中の自由を楽しみ、何不自由のない生活を送っています。一方で、たまたまカンボジアの裕福でない村に生まれた子供たちは、貧困と労働の合間に教育を受け、安全な水も十分な食料も清潔な衣類もなく、大勢の友人たちと草原を本当に楽しそうに駆けていました。可哀想だ、そう思った時に私は気づきました。私の中のものさしは、なんて平和に作られているのだろうと。その子供たちは労働の合間に勉強できることに感謝し、貯蓄した雨水に耐性があるのです。道具がなくても自分たちで遊ぶことができるのです。自由を見出すことができるのです。傲慢かもしれません。都合のいい言葉かもしれません。綺麗ごとになるかもしれません。ですが私たちは気づかなければ、学ばなければ、考えなければいけないことがたくさんあるのだと思いました。

他のたくさんの体験も、さまざまなことを考えさせられました。なかでも印象に残っているのは水上生活を見学させていただいたときに、一人のロータリーの方のお言葉です。そこには親の手伝いでボートの仕事をする子供、ボートに小舟を寄せて仕事をする子供、親に言われて金銭や物資をせがむ子供、たくさんいました。私は彼らをただ一括りに貧しい子供と思っていました。しかしその方は仰いました。彼らはそれこそ貧しいということに変わりはないけど全員同じわけじゃない。労働の対価に金銭を求めると、同じ状況で見返りのない金銭を求めることはまったく違う。物事をどう捉えるか、その線引きが大切なのだ、と。私はその言葉がいつまでも心に残りました。

最後になりましたが、このような貴重な体験をさせていただき本当にありがとうございました。いつもの自分の生活に戻った今、現在の自分や将来について考えることにつながっています。重ねまして、本当にありがとうございました。

<p>本日(9月3日)の例会 第一例会行事 炉辺会合報告</p>	<p>9月10日 新世代月間に因んで スクールソーシャルワーカー 中嶋暁美氏</p>	<p>9月17日 ネパールミトラ小学校 WCS活動報告 福井RC 清水嗣能氏</p>	<p>9月24日 18:30～ (夜間例会) 「今日から始める快適睡眠術」 林 秀樹会員</p>
---	--	--	--



小屋の建設

地雷撤去作業見学

ゲスト・ビジター紹介

地区職業奉仕委員 山田寿治様 (武生府中RC)

10月の職業奉仕月間に、貴クラブにて田中大成職業奉仕委員長に卓話をさせていただくよう、依頼にまいりました。本年度は、委員長自ら職業奉仕に対する理解と実践の意識を高めていただくため、各クラブの委員長に卓話を依頼しています。また、会員の皆さんには「私の職業奉仕」のレポートを書いていただけたらと考えています。



武生東高校インターアクトクラブ様
インターアクト研修報告

報告事項

青少年奉仕委員会：石本茂雄委員長

希望の風奨学金（東日本大震災孤児）の募金箱を例会受付に設置します。ご協力をお願いします。

ニコニコ箱 …… 28,800円 累計 326,300円

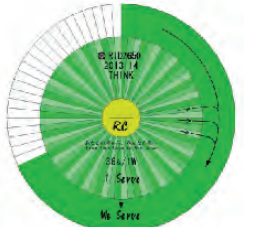
- ・ゲスト 【山田寿治様 (武生府中RC)】
- ・インターアクトの皆様、発表宜しく申し上げます。
- 【奥村 忠・野田義弘】
- ・8月25日～26日、お伊勢様の御白石を納める行事に石川夫妻と共に参加させていただいて。 【高橋俊雄】
- ・戸谷片屋線オープン。府中大橋を渡り、例会会場への初コース。 【渡辺佳男】
- ・たまには。 【杉原春樹】
- ・いつもありがとうございます。 【玉村一男】
- ・会報に登山の記事と写真を載せて頂き、ありがとうございます。 【藤井洋造】
- ・山田先生、お疲れ様です。 【田中大成】
- ・暑かった8月も終わります。しっかり楽しみました。 【西藤浩一】
- ・自祝 【林 秀樹】
- ・炉辺会合の残金です。 【記念事業担当委員会】

例会変更情報/福井県内ビジター受付 (9月4日～9月17日)

- 9月 9日 敦賀西RC 12:00～12:30 ニューサンピア敦賀ロビー
- 9月11日 鯖江北RC 12:00～12:30 神明苑2F階段横ホール
- 9月13日 福井西RC 12:00～12:30 パードグリーンホテル
- *変更の無い各クラブの定例会については、ロータリーのホームページ等にてご確認ください。



2013-2014 RI テーマ
ロータリーを實踐し、
みんなに豊かな人生を



2013-2014 第2650地区テーマ
-from Your Good to Our Good-
[あなたの善からみんなの善へ]

創立/1954年(昭和29年)6月30日 例会日/毎週火曜日 例会場/武生商工会館
事務局/〒915-8522 越前市塚町101 武生商工会館内 TEL.0778-23-5210・FAX.0778-22-2333 E-mail:takefur@es.ttn.ne.jp
会長/奥村 忠 幹事/宇野晃成 会報委員長/宮前貴司

第2880回 例会記録 平成25年8月27日(火)

本日出席会員35名

メイクアップ(前々回) 7名

出席率(前々回補正) 85.19%



ロータリーソング「それでこそロータリー」

ゲスト 武生東高校インターアクトクラブ

顧問 三田村万紀子氏

生徒 古木祥子さん、岡山まどかさん

地区職業奉仕委員 山田寿治氏(武生府中RC)

会長挨拶 第60代会長 奥村 忠

郷土の偉大な先輩に、土肥慶蔵という方がおられます。日本に皮膚科学を創設し、東京大学皮膚科学教室の初代教授になられた先生で、慶応2年(1866)越前府中松原(現在のNTTの建物のあるところ)で、府中藩医石渡宗伯の次男として生まれました。若くして両親を失い、主として母の兄土肥淳朴の学費援助を受け、20歳で東京大学医学部本科に進み、24歳の時、土肥姓を名乗り、26歳で大学卒業、直ちに第一外科に入局。明治26年(1893)、ドイツのハイデルベルグ大学で外科を取練しておりました。



留学中に東大で「皮膚病学梅毒学講座」新設の計画が持ち上がり、先生に白羽の矢が当たったようです。はじめ辞退したが聞き入れてもらえず、皮膚科学を専攻、ウイーン大学で皮膚病学、次いでパリ大学では泌尿器科学を学び(皮膚科と泌尿器科は長く同講座で、今のように別れたのは主に戦後)、帰国後、32歳で東京帝国大学教授に任命されました。

日本の皮膚科学の草創期に当り、欧米からそれを移植したが、皮膚病は特に気候や習慣の影響を受けることが多く、日本人のための皮膚科の確立に苦心したようです。明治33年(1900)には日本皮膚科学会を設立、会長に就任されています。大正14年(1925)、先生は4回目の外遊を行い、スペインのマドリッドまで足をのばし、貴重な資料を入手して帰国しました。大正15

年に定年。その後、東京帝国大学名誉教授になられ、昭和6年11月6日、肝臓癌により66歳で亡くなりました。先生は、文学・絵画・陶芸など多彩な趣味をお持ちで、特に医学史にも造詣が深く、退官後に書かれた梅毒のアメリカ起源説を立証した「世界梅毒史」は不朽の名著とされています。「鵲軒遊戯」という書物では、日本における漢方の治療法の一つ、吐方を再興した我が家の初代奥村良筑のことや家系のことを詳しく書かれ、先生の尽力により、大正12年初代良筑に対して正五位が追贈されました。また強く郷土を愛し、「若越医学会」を創り、郷土の医師育成にも尽力されました。福井県医師会館の前庭に先生の顕彰碑が建てられております。また、もう一人の郷土の偉人渡辺洪基先生(東京大学初代総長)とともに明治20年(1887)に武生郷友会の設立にも尽力されたと聞いております。

先生は、文学・絵画・陶芸など多彩な趣味をお持ちで、特に医学史にも造詣が深く、退官後に書かれた梅毒のアメリカ起源説を立証した「世界梅毒史」は不朽の名著とされています。「鵲軒遊戯」という書物では、日本における漢方の治療法の一つ、吐方を再興した我が家の初代奥村良筑のことや家系のことを詳しく書かれ、先生の尽力により、大正12年初代良筑に対して正五位が追贈されました。また強く郷土を愛し、「若越医学会」を創り、郷土の医師育成にも尽力されました。福井県医師会館の前庭に先生の顕彰碑が建てられております。また、もう一人の郷土の偉人渡辺洪基先生(東京大学初代総長)とともに明治20年(1887)に武生郷友会の設立にも尽力されたと聞いております。

先生は、文学・絵画・陶芸など多彩な趣味をお持ちで、特に医学史にも造詣が深く、退官後に書かれた梅毒のアメリカ起源説を立証した「世界梅毒史」は不朽の名著とされています。「鵲軒遊戯」という書物では、日本における漢方の治療法の一つ、吐方を再興した我が家の初代奥村良筑のことや家系のことを詳しく書かれ、先生の尽力により、大正12年初代良筑に対して正五位が追贈されました。また強く郷土を愛し、「若越医学会」を創り、郷土の医師育成にも尽力されました。福井県医師会館の前庭に先生の顕彰碑が建てられております。また、もう一人の郷土の偉人渡辺洪基先生(東京大学初代総長)とともに明治20年(1887)に武生郷友会の設立にも尽力されたと聞いております。

プログラム

『インターアクト夏季研修報告(カンボジア)』

武生東高校インターアクトクラブ
顧問：三田村万紀子先生、
生徒：古木祥子さん、岡山まどかさん

8月4～9日カンボジア研修に参加させていただきました。現地民家での宿泊では小屋に蚊帳を吊ったようなところに泊まり、トイレはひしゃくで水を流す質素な物でした。昆虫を食べたり(現地料理)、地雷撤去作業の見学、小学校の食堂小屋の建設実施など、日本では決して経験できない貴重な体験をさせていただきました。



「みえているもの、みえてくるもの」
武生東高等学校 2年 岡山まどか
私はカンボジアに滞在した5日間、たくさんの写